

令和元年6月11日現在

機関番号：26402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13461

研究課題名(和文) 社会ダイナミクスにおけるステレオタイプの伝染過程に関する検討

研究課題名(英文) Stereotype contagion in social networks

研究代表者

榊 美知子 (Sakaki, Michiko)

高知工科大学・総合研究所・客員准教授

研究者番号：50748671

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ステレオタイプが、所属する社会や友人関係のネットワークを通して伝染し、社会の中拡大していく可能性を検討することを目的としていた。本年度は以下の2つの研究を行った。第一に、大学生を対象として、友人ネットワークを通してステレオタイプが時間と共に共有されていくかを検討した。伝染の普遍性を調べるため、昨年度同様、日本とイギリスの両国において検討を行った。第二に、友人関係を越えた他者の影響を検討するため、夫婦のステレオタイプの類似性に関する縦断調査を行った。これらのプロジェクトの結果、夫婦間においても、友人間においても、ステレオタイプが時間と共に類似度を増していくことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界各国で、ステレオタイプ(例：イスラム教徒はテロを起こしやすい)に基づく差別が問題となり、社会における差別感情の蔓延と拡大が大きな問題になっている。こうした社会背景を踏まえると、差別感情や偏見がどのように社会で広がっていくのかに関する研究が急務と言える。しかし、これまでの社会心理学研究では、実験室内での他者の影響の検討に留まり、「現実の複雑な人間関係の中でステレオタイプや偏見が拡散するのか」に関しては十分に明らかになっていない。本研究はこうした先行研究の限界にアプローチするもので、学術的にも、社会的にもその意義は高いと考える。

研究成果の概要(英文)：Friends and romantic couples tend to be similar in a broad range of attributes (personality, age, and race). However, it is not known whether the effects of friends and romantic partners extend to stereotype. Using a longitudinal design, the current project examined whether or not one's stereotype and attitudes become similar to those of their friends or their spouses over time.

研究分野：社会認知神経科学

キーワード：ステレオタイプ 伝染 ネットワーク

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

世界各国で、ステレオタイプ（例. イスラム教徒はテロを起こしやすい）に基づく差別やヘイトスピーチが問題となり、社会における差別感情の蔓延と拡大が大きな問題になっている。こうした社会背景を踏まえると、差別感情や偏見がどのように社会で広がっていくのかに関する研究が急務と言える。特定の集団に対する差別感情や偏見は、社会心理学では、主にステレオタイプという文脈で検討されてきた。その中で、ステレオタイプを規定する個人内要因（例. 動機づけ）だけでなく、他者との相互作用の影響に関しても明らかにされている（e.g., Amodio et al., 2006; Devine, 1989; Fiske, 2000; Dasgupta & Greenwald, 2001; Kashima et al., 2015; Greenberg & Pyszczynski, 1985; Tadmor et al., 2012）。しかし、これらの先行研究のほとんどが、実験室内での二者間の相互作用の検討に限定されており、「現実の複雑な人間関係の中でステレオタイプや偏見が拡散するのか」というステレオタイプや偏見の伝染（contagion）に関しては明らかにされていない。

### 2. 研究の目的

本研究では、ステレオタイプが、所属する社会や家族関係、友人関係のネットワークを通して伝染し、拡大していく可能性を実証的に検討することを目的とした。具体的には、人と人とのネットワークの中で、ステレオタイプがどのように伝染するかを、縦断的調査研究を用いて明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

夫婦や友人の親密さに関する指標と共に、ステレオタイプの類似度を縦断的に測定し、ステレオタイプが友人や夫婦間で類似していくのか否かについて検討した。

### 4. 研究成果

研究1では90名の大学生を対象に、ムスリムへの顕在的な偏見と潜在的な偏見が友人のペアで似ているかどうかを横断的に調べた。その結果、顕在指標では友人同士が類似する傾向が認められたのに対して、潜在指標ではそうした傾向が認められなかった。友人同士で類似するのは顕在的ステレオタイプのみであることから、社会的な影響は特に表面的な態度や行動に影響を与える可能性があることが示唆された（表1）。

ただし1時点のみの測定では、もともとステレオタイプが似ているもの同士が友人になったのか、友人同士が互いに影響を与え合っ、ステレオタイプの類似度が上がったのかどうか分からない。そこで研究2では、友人ペアのムスリムへの偏見を縦断調査によって測定した。その結果、ムスリムへのステレオタイプの顕在指標において、友人の効果が認められた。具体的には、時間とともに友人のステレオタイプが高くなるほど、本人のステレオタイプも高くなるという正の相関が認められた（図1）。このことから、ステレオタイプの友人関係における伝染の可能性が示唆される。

表1. 各指標のペア間・ペア内分散と級内相関係数

		MS <sub>B</sub>	MS <sub>W</sub>	ICC
潜在指標	Dスコア	0.228	0.294	-0.127
	SD法	1.267	0.653	0.319
顕在指標	感情温度計	4.269	2.500	0.261

MS<sub>B</sub>は各指標に対するペア間の分散、MS<sub>W</sub>はペア内の分散。ICCは級内相関係数を表す。ICC=(MS<sub>B</sub>-MS<sub>W</sub>)/(MS<sub>B</sub>+MS<sub>W</sub>)である。

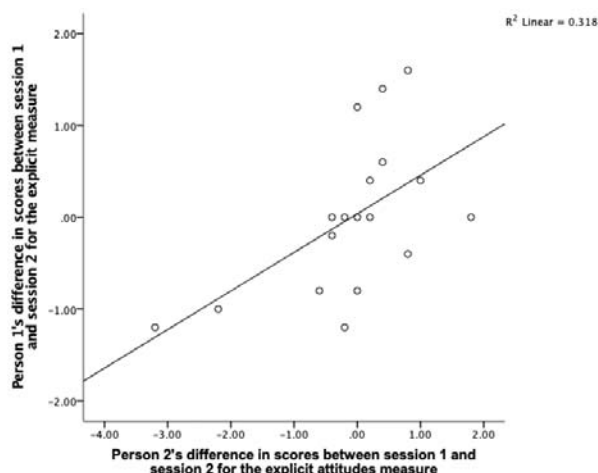


図1. 友人のステレオタイプが与える影響

研究1と研究2では、友人の影響に注目したが、友人関係とは現実の人間関係の一部に過ぎない。そこで研究3ではおよそ300組の夫婦を対象に、偏見やステレオタイプに関する縦断研究を行った。調査では、日本人に対するステレオタイプ、韓国人に対するステレオタイプ、ムスリムへの偏見尺度(Turner & Crisp, 2010)、平等主義的性役割態度スケール(鈴木, 1994)、ナショナリズム尺度(Weiss, 2003)、政治的態度(三船・横田・中木, 2013)を1年間隔で測定した。その結果、1年目にも2年目にも、ほぼ全てのステレオタイプや態度に関する指標で、夫婦が類似していることが確認された。更に、ムスリムへのステレオタイプでは、時間

と共に夫婦の類似度が高くなることが分かり、特に妻のムスリムへの偏見が強いほど、1年後に夫のムスリムへの偏見が強くなることが分かった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 波多野文・榊美知子・小宮あすか・村山航（2018）「夫婦は偏見を共有するのか」 日本心理学会大会 82 回大会 東北大学 学術大会優秀発表賞受賞
- ② 波多野文・榊美知子・小宮あすか・増田直紀\*・村山航（2017）「友人間における偏見の類似性」 日本心理学会大会 81 回大会 久留米大学

\*研究協力者

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：小宮 あすか

ローマ字氏名：Asuka Komiya

所属研究機関名：広島大学

部局名：大学院総合科学研究科

職名：准教授

研究者番号（8 桁）：50745982

研究分担者氏名：村山 航

ローマ字氏名：Kou Murayama

所属研究機関名：高知工科大学

部局名：総合研究所

職名：客員教授

研究者番号（8桁）：10748726

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：増田 直紀

ローマ字氏名：Naoki Masuda

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。